

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月9日

協議会名: 中土佐町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 中土佐ハイヤー	①萩原循環線 ②鎌田線 ③黒石野線 ④黒石野線(楠の川) ⑤松の川川崎線 ⑥大坂線 ⑦長沢線 ⑧下ル川線 ⑨萩中線 ⑩高樋線	バスの乗り方教室の開催や町民との対話を通じた利用促進策を実施した。しかし、依然として著しく利用者数が少ない一部の区間については地域ヒアリングを行い合意を得たうえで休止した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 全体の利用者については、久礼地区において1路線を除いた他の路線全てで前年度を上回ったものの、大野見地区においては全体的に利用が減少した。 全ての路線において目標値を下回る状況となっている。 運行開始から5年が経過し、当初より利用してくれていた高齢者が徐々に利用できなくなる一方で、新しい利用者の定着が少ないことが理由と考えられる。 ①目標8人/日に対し3.6人/日 ②目標8人/日に対し1.0人/日 ③目標2人/日に対し0.6人/日 ④目標12人/日に対し9.1人/日 ⑤目標8人/日に対し3.4人/日 ⑥目標8人/日に対し3.6人/日 ⑦目標8人/日に対し3.4人/日 ⑧目標25人/日に対し15.4人/日 ⑨目標20人/日に対し15.1人/日 ⑩目標15人/日に対し8.7人/日	生活交通手段として一定の認知度は獲得しているが、いまだ利用するに至っていない層が存在する。 今後はこのような層に対するアプローチを進めるために、引き続き福祉部門と連携を密にし利用者の掘り起こしを進めていく。 しかしながら極端に利用が少ない上に今後利用の拡大が見込まれない区間の運行休止などを踏まえ、全体的に利用が低調となっていた久礼地区のコミュニティバスを大きく再編する必要がある。